

今までの授業

〔知識及び技能〕については、一人一台端末を活用した語句調べや新出漢字を使った語句の反復練習および小テストなどを通して、語彙指導の充実を図ってきた。

〔思考力、判断力、表現力等〕については、小グループでの対話的・協働的な学習場面を設定したり、答えが一つでないテーマについて考え、発表したりする機会を通して指導してきた。

〔主体的に学習に取り組む態度〕については、対話的な学びから得られた気づきをもとに、学習テーマに対する興味や意欲を向上させ、主体的に学びに向かう指導をしてきた。

今回の調査結果

1年生の「総合学力調査」では、総合的には全国および日野市の平均を上回っているが、「書くこと」の領域の平均正答率は47.4%と低かった。

2年生の1学期中間・期末テストでは、知識・技能の得点率は73%、思考・判断・表現は59%であった。

3年生「全国学力・学習状況調査」では「言葉・情報・言語文化」の領域で全国および東京都の平均を下回った。また、自分の考えやその理由を書く問題で特に正答率が低かった。

原因

生徒同士の対話的な学びに重きを置いて指導を行ってきたが、その活動が客観的な学力に結び付けられておらず、技能として定着していると言えない。

原因として、多くの生徒が主体性を発揮しているが、それらの活動が学力の向上に貢献している層とそうでない層との二極化が進んでいることが挙げられる。家庭学習および自由進度学習の場面において、学習内容を振り返り、粘り強く繰り返すことが学力向上には不可欠であり、復習や反復練習の場面が不足していたと考えられる。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ・全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っていく。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ・ただ活動するだけの学習にならないよう留意する。特に、相互の関係性の中で、互いの意見の共通点や相違点を見出すとともに、その立場や考えを尊重しながらも、言語を通して適切に表現し合う力を高めていく指導を心がける。また、活動が客観的な学力の向上に寄与するように小テストなどを多く取り入れていく。

第2学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ・教材の中に含まれている社会的なテーマと実生活の結びつきを発見し、自分ごととして捉えられるようにする。国語が社会生活に深く関連した学習であることに気づかせ、興味や意欲の向上を図る。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ・生徒同士の対話的な学びを促す活動の場면을効果的に配置しながらも、一方でそれぞれの個別の課題に応じた自由進度学習を取り入れることで主体性を引き出し、個別最適な学びをデザインするように心がける。

第3学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ・言語活動の中で、相手や場面・状況、目的や意図に応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直観的に判断する言語感覚を養っていく。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ・対話的な学習を中心とし、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養う。また、その関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるように指導する。